

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170501845), 法人名 (有限会社ユアスタッフ), 事業所名 (グループホームもいわの里石山館 たのし荘), 所在地 (札幌市南区石山3条7丁目3番12号), 自己評価作成日 (平成26年9月10日), 評価結果市町村受理日 (平成27年1月7日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

Table with 4 numbered points: 1. 困難ケアへの取り組み, 2. 季節感, 3. アクティビティ, 4. スキルアップ. Each point describes activities and staff efforts.

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 1 row: 基本情報リンク先URL

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号), 訪問調査日 (平成26年12月16日)

Empty table box.

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes and staff actions.

創作活動に取り組んでいます。今迄の創作品を場所をとらず掲示出来たらなと考えます。

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	業務開始前、理念を読み上げる等し、実践に繋げている。 理念「職員階段室・居間」掲示している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事には参加している。 (石山夏祭り、春秋町内会清掃、石山地区新年交礼会、地域文化祭への出品、地域防災訓練)、ホームの火災避難訓練(春秋)に、協力を頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「就労支援」「地域ボランティア」の受入を積極的に行い活動の場を提供、職場の理解・支援法について招合せを行い目的に沿った活動を目指している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催「運営推進会議」等の場を通し、利用者の暮らし「生活リポート」、認知症を始め高齢者の暮らし、介護保険制度、国・地域の政策の概要を検証、介護サービスの実態等々を整理して意見交換している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市主催、GH管理者定期会合、研修会等には出席し、連携に努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内において「身体拘束廃止委員会」勉強会を定期的開催し話し合い、定義・原則の具現化を行い、事業所全体で正しく理解し、実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待防止」等について定期的勉強会を実施し、職員間で注意を払っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の中に「青年後見制度」の利用者がおり、日頃から実践で学び、更に有効活用ができる様支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談受付や入居契約時は、「入居契約書」「重要事項説明書」「ホーム利用案内」等に基づき説明と理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々、利用者及び家族が意見や要望を表せる様に務め、ケアプラン更新説明の場、面会の機会等を通じ意見反映に努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の業務内、定例全体会議やOJTの場を通し、運営に関する話題を心がけ、意見を述べやすい環境づくりを心がけている。年1回、定期的に全職員がYSS「ユアスタッフ・セルフ・サマリ」を提出して現状の自己分析、スキルアップ計画の立案、具申等の機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいを持って業務に取り組めるよう、人事考課制度が設けられ、全職員が業務目標を明確にし実践している。YSS「ユアスタッフ・セルフ・サマリ」を作成し、現状の自己分析、スキルアップ計画等を具現化している。又、職員がストレスをため込まない取組として、「ストレスチェック表」を活用してメンタル面のサポートをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修 5分勉強会等開催、社外研修への参加。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「南地区管理者連絡会」「地域学会」等参加を通じ関係作りを図り、相互のサービス向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	その人の心身・家族関係・人生を知り共感し、新しい環境に馴染める様、傾聴と安心な言葉掛けに努めてリロケーションダメージを最小限に食い止め早期に安心した生活に溶け込めるよう本人、家族、職員の連携を図る。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困難、利用者との関係性、思いを理解・共感し介護面、環境面、自立面から切り口で、常に連携に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談から利用に至る過程で十分な情報収集と、アセスメントを行い、潜在化している事を理解し、その人らしい暮らしができる様、見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭き 片付け等一緒に行って頂き共の関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者自筆の季節の手紙を出したり、電話等で家族とのコミュニケーションが継続できる様支援、近郊に一緒に出掛けて頂く、行事(誕生日会)等でお手伝い頂いている等の支援を継続している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人来訪時、職員も入り会話したり、可能な限り以後のお付き合いを継続できる様支援する。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の穏やかな関係を構築できる場づくり(アクティビティー・レク企画等)と、個々の持ち味を生活に反映出来る様、相互居室訪問の機会等に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も様子について家族から来訪し、お話しを頂く事がある。又、必要な情報提供、支援等を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	体調によって気持ちは変わる、「共に歩む」本人本位に努めている。本人を深く理解し「日々アセスメント」の意識を持ち、言葉に出来ない思いも受け止める。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	主たる生活状況把握、日常生活へ反映に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状況変化に応じてアセスメントを実施している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネ監修の下、全職員が利用者のケアプラン原案づくりに関わっている。又、定期的にサービス担当者会議を開催してモニタリングを実施、アセスメントに反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・健康 睡眠等について個別経過記録を作成して、医療連携等に活用している。 ・「分かり易い言葉遣い」でケアプラン内容が反映された記録作成に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	距離的に遠い、頼りになる人が不在等、許される範囲内対応に努めている。本人・家族の意向に沿った多様なニーズにこたえられる様支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域在住のボランティアの協力を頂き地域の出来事や生活の声を話して頂き皆さんの豊かな暮らしにつながっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎日、バイタルチェックを実施して心身の状況を把握し、医療連携に共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携医療機関との在宅診療・医療連携により、利用者の健康状態がリアルタイムで共有されており、利用者ごとの医療アドバイスが受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院治療時はフェースシート等により情報提供と、医療担当者との連携に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴うサービス全般について、日頃から本人家族の希望や意向を伺っており終末期を迎える条件整備を確認している。又、看取りファーストケースについて、職員勉強会を実施している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「緊急時指図書」等を作成している。定期的に演習している。「応急手当や心肺蘇生」「救急車を呼ぶまでの流れ」等について施設内研修を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防の立会いの下、町内会の協力を頂き、火災避難訓練を実施している。町内会役員さんから訓練のあり方等について貴重な助言を頂いている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム理念中の「高齢者を人生の先輩として敬う」基本姿勢でプライバシーを守り名字さん付けにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴し、ゆっくりとした会話に努めている。反応を急がせないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のそれまでの暮らし、尊厳を全職員が理解し、日々の生活を充実した暮らしになる支援を心がけている。又、パーソンセンタードケア勉強会実施と実践。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それまでの趣向に沿った支援となる様心がけている。又、非日常的な楽しみとして、「浴衣・着物・お化粧・季節の装飾品(ハロウィンツール等手作り)」等のワンデイ企画と撮影会を楽しく取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のリクエストによるメニュー日を設けている。又、ホワイトボードに「朝昼夕」メニューを記してもらっている。今日の料理、分かるようにしている。食器後片付け協力して頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事提供は、「週刊メニュー表」に基づいて栄養バランス、季節感、味覚をそそる盛り付けを考慮して提供されている。又、体調管理は「温度板」「水分・排泄表」にて把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアと健康維持の関わりを利用者に納得して頂く啓蒙のための会話を重要な位置づけとし、その方に合った方法で、口腔内清潔保持を支援する。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	「排泄パターン」を把握し、さりげないトイレ誘導を心がけ、失敗の場面が回避できるよう支援する。又、出来る限り、綿の下着を着けて頂き、最小限のパンツやリハビリパンツで済む様な支援を心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から食事メニュー、繊維質を摂取できる様、工夫して食生活改善に取り組んでいる。日課棒体操に「便秘予防運動」取り入れ、腸の運動が活発になる様に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	事前に入浴についてお話しをして入浴時間を設定している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床時間は特に限定せず、寛いで頂いている。安眠につながっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的に「向精神薬」勉強会を実施している。服薬は「服薬指図書」を注意・確認しトラブル発生しないよう取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	大小にかかわらず一人一役を役割を担って頂いて生きがい・自信に繋がっている。アクティビティ機会を多く設定している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣散策実施している。又、季節感が感じて頂ける様、車で名所に出掛けている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの力に応じ支援している。 (家族の理解、連携のもと)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り次ぎ、本人の気持ちの代弁、絵手紙支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆さんが創作した様子、その作品掲示している。又、「植物コーナー」「図書コーナー」を設けている。心地良い共用空間となっている。寛いで頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用場所： 図書コーナー「写真 漫画 料理本・・・他」 観葉植物コーナー「ポトス フーゲンベリア 他」 バルコニー植物「あさがお こまつな 大葉」 大きなTV,エレベーターホール「写真掲示コーナー」		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に居ても居間の気配や台所から出る家庭的な音を感じる事が出来、孤独を感じる事がない設計になっている。又、居室には家族写真、思い出の品、なじみの家具等が据え付けられている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物には段差がなく、自由に移動が出来る安全な作りとなっており、居間を取り囲む居室の配置となっている。必要に応じて「大きな表札」、分かり易い「トイレ表示」となっている。		